

ばんせい 研修活動プログラム集

2026 年8月 13 日改訂

独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立磐梯青少年交流の家

<活動プログラム一覧表>

活動プログラム名	活動時期	所要時間 (目安)	指導形態(※1)		実施 可能な 天候	研修指導員 依頼(※2)	指導料金 (※3)
			学校	学校 以外			
【登山】							
①八方台往復コース	6月～9月	8時間	一貫可	一貫可	晴	○	18,000円
②猪苗代スキー場～八方台登山口コース (※4)	7月～10月	7時間	一貫可	一貫可	晴	○	18,000円
③猪苗代スキー場往復コース (※4)	7月～10月	4時間	一貫可	一貫可	晴	○	18,000円
【ハイキング】							
④五色沼探勝路ハイキング	5月～10月	4時間	一貫可	一貫可	晴	○	11,200円
⑤天鏡台ハイキング		3時間	直接	間接	晴		
⑥ナイトハイク	5月～ 11月第1週	0.5～1 時間	間接	間接	晴		
【森林学習プログラム】							
⑦デジタル樹木オリエンテーリング	通年	2～3.5 時間	直接	間接	晴・雨		
⑧モリトミライ	通年	2～2.5 時間	一貫	一貫	晴・雨	◎	初回無料 600円/人
【オリエンテーリング】							
⑨スコアオリエンテーリング	5月～ 11月第1週	1.5～2 時間	直接	間接	晴		
⑩屋外こことこオリエンテーリング		1.5～2 時間	直接	間接	晴		
⑪屋内こことこオリエンテーリング	通年 (屋内)	1.5～2 時間	直接	間接	晴・雨		
⑫イングリッシュオリエンテーリング	通年 (屋内)	1.5～2 時間	直接	間接	晴・雨		
⑬ばんせい探偵団	通年 (屋内)	2～3 時間	直接	間接	晴・雨		
【野外炊飯】							
⑭野外炊飯(カレーライス・焼肉) 昼食10時～、夕食15時～	5月～ 11月第1週	3～4 時間	一貫可 (※5)	直接 (昼食のみ)	晴・雨		
⑮特別野外炊飯(※6)	5月～ 11月第1週	任意		間接	晴・雨		
【創作活動】(※7)							
⑯赤べこの絵付け	通年	1～1.5 時間	直接	間接	晴・雨		
⑰流紋焼き(絵付け)	通年	1.5 時間	一貫	一貫	晴・雨		
⑱流紋焼き(手びねり)	通年	2時間	一貫	一貫	晴・雨		
⑲会津漆時絵	通年	1.5 時間	一貫可	一貫可	晴・雨		
【セレモニー】							
⑳キャンプファイヤー	5月～ 11月第1週	1.5時間	間接	間接	晴		
㉑キャンドルファイヤー	通年	1～2 時間	間接	間接	晴・雨		
【自然観察】							
㉒天体観察(※8)	通年	2時間	一貫可	一貫可	晴・雨	○	5,600円

活動プログラム名	活動時期	所要時間 (目安)	指導形態(※1)		実施 可能な 天候	研修指導員 依頼(※3)	指導料金 (※4)
			学校	学校 以外			
【冬の活動】							
②③ そり・スノーチューブ	1月～3月 (積雪時)	任意	直接	間接	晴		
②④ スノーシューハイキング 【ショート(施設内、施設周辺)】 【ロング(五色沼など)】		2～3時間 3～6時間	一貫可	一貫可	晴	○	【ショート】 8,400円 【ロング】 16,800円
②⑤ 雪遊び		任意	直接	間接	晴		
【地域連携プログラム】							
②⑥ 震災講話	通年	任意	一貫	一貫	晴・雨	講師をお呼びしてお話を 聞くことができます。 (応相談：依頼する場合は入所 40日前までに活動日程表に記 入して提出してください)	
②⑦ カワセミトーク (アクアマリンいなわしろカワセミ 水族館との連携プログラム)	通年	任意	一貫	一貫	晴・雨		

<注意事項>

※1 指導形態については以下のとおりです。

一貫……一貫指導：交流の家職員等が活動開始から終了まで指導を行います。

一貫可……一貫指導可：交流の家職員または研修指導員等に活動開始から終了までの指導を依頼できます。一貫指導を希望しない場合は間接指導となります。

直接……直接指導：交流の家職員が活動開始時と終了時の指導を行います。

間接……間接指導：交流の家職員が活動の進め方について団体責任者に説明します。

※2 ○は研修指導員依頼可能な活動です。研修指導員の依頼は10名以上の団体に限ります。

モリトミライについては公認ファシリテーター資格を有する交流の家職員が指導を行います。

※3 研修指導員等の指導料金です。登山と五色沼探勝路ハイキング、天体観察は1回当たりの料金です。

モリトミライを同一団体に複数回実施する場合、2回目からは参加者1人につき600円の指導料金が発生いたします。(初回無料になるのは令和8年度までです。)

※4 20名以上で実施可能です。

登山用リフトを利用するため、登山出発時刻等に制限が生じます。

実施する場合は交流の家へお問合せください。

リフト料金は下表をご参考ください。(令和7年6月現在)

なお、同行する研修指導員はリフト代が不要です。

	小学生	中学生以上
②磐梯山登山 猪苗代スキー場～八方台登山口コース (リフトを往路のみ利用)	1,200円	1,600円
③磐梯山登山 猪苗代スキー場往復コース (リフトを往復で利用)	2,400円	3,200円

※5 野外炊飯(夕食)については、中学生～大学生までの教育活動に則った団体のみ対象となります。

※6 特別野外炊飯は、青少年団体、一般団体のみ対象となります。

※7 ①⑦⑧のプログラムは20名以上、①⑨のプログラムは10名以上で実施する団体に限ります。

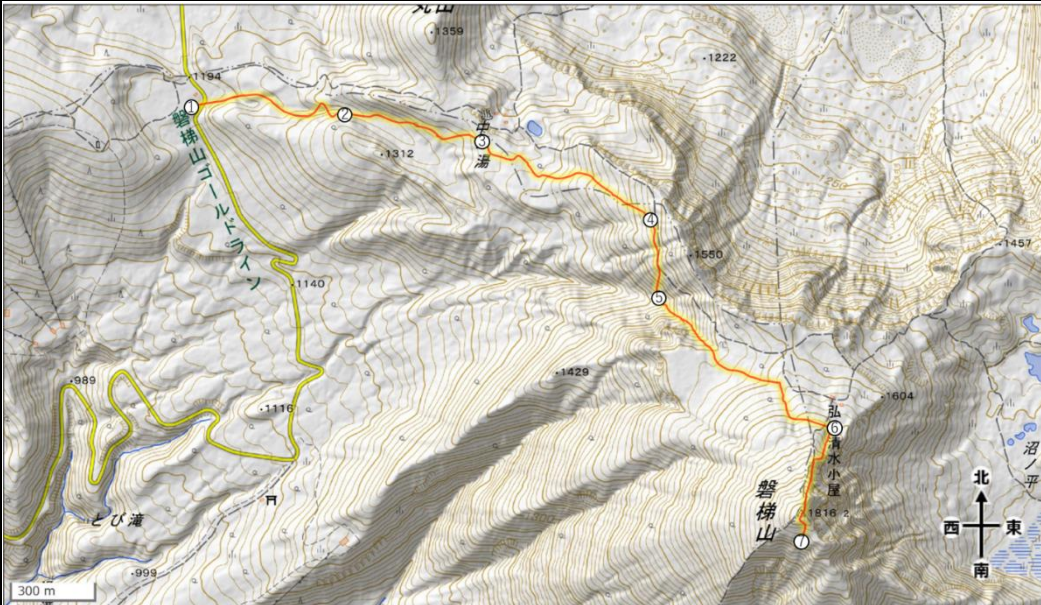
※8 研修指導員が手配できない場合は、双眼鏡、星座早見表の貸出しのみとなります。

研修指導員を依頼した場合は2時間になります。荒天時も屋内で実施となります。

①磐梯山登山（八方台登山口往復コース）



一貫指導可（活動時間の目安：約8時間）

概要	山頂（標高 1800m）とスタート地点・八方台登山口（標高 1200m）との標高差は約 600m、高低差が少ないコースです。晴天時には山頂から猪苗代湖が一望できます。			
ねらい	集団で自然体験活動をすることで生きる力や自己有用感を育むとともに、心身の健康を図ります。			
条件	対象	小学5年生～	人数	制限はないが1クラスに1名の引率者が必要
	時期	6月～9月	実施判断	引率者確認事項を参照
準備物	交流の家（貸出物品）	団体（準備物）		個人（準備物）
	☐熊鈴 ☐地図・登山マップ ☐方位磁針 ☐トランシーバー（研修指導員用、引率者用）	☐救急セット ☐登山計画書 ☐非常時用簡易トイレ または弘法清水で簡易トイレを購入する代金 ☐非常用水・非常食 ☐携帯電話・時計		☐デイパック ☐長袖・長ズボン ☐帽子 ☐水筒（水1ℓ以上） ☐雨具
登山ルート	 本地図は、地理院地図を加筆・修正して作成しました。 ①八方台登山口（登山ポストあり） ②広い尾根（休憩箇所） ③中の湯（火山性ガスが出ているので長居しない） ④桧原湖展望台（休憩箇所） ⑤鎖場（くさりば：崖に注意） ⑥弘法清水（こうぼうしみず）（休憩箇所・山小屋と簡易トイレあり） ⑦磐梯山山頂（休憩箇所）			

引率者の役割	団体責任者	・研修指導員との事前打合せと当日の実施判断・中断の決定をします。 ・交流の家に下記4地点で連絡を行います。 (登山開始後電波状況が回復次第すぐ・弘法清水小屋・頂上・下山後電波状況が回復次第すぐ)
	グループ責任者	・出発前と活動中及び到着後の人数の把握と健康状態の確認をします。 ・研修指導員からの指示や注意事項などを参加者に伝えます。 (学校では担任が一般的)
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。
	本部係	交流の家又は登山口で緊急車両を用意して待機し、途中下山者対応に備えます。
研修指導員の役割		・活動当日の朝に交流の家または現地で団体責任者と打合せをします。 ・登山口で参加者に安全面についての説明をします。 ・活動中は道案内や危険箇所状況に応じた指示を出します。 ・下山後に交流の家または現地で団体責任者と振り返りをします。
交流の家職員の役割		・物品の貸出しや回収を行います。 ・団体責任者からの連絡を受け取ります。 ・当日の朝の打合せ、下山後の振り返りの進行を行います。 ・天候等の状況に応じて、研修指導員に現状確認や安全確認の連絡を行います。
引率者確認事項		【施設入所前】 ・磐梯山の火山活動の状況を気象庁ホームページ等で確認してください。 ・登山ルートと時間配分の確認をします。登山日の活動をゆとりのある計画にしてください。 ・研修指導員を依頼する場合は入所40日前までに活動日程表に記入して提出します。目安は1クラスに対して指導員1名となります。 ・登山当日までに日程・登山形態(引率者確認事項【登山中】を参照)を計画して登山計画書(届)を2部作成します。(登山ポスト又は猪苗代警察署用に1部、交流の家用に1部) ・事前に役割分担や参加者への指導(安全指導、装備確認)などを行います。 ・実施前日の16時までに実施判断を行い、実施の有無について交流の家に連絡をします。研修指導員を依頼している場合は、実施判断について研修リーダーと相談をします。 【施設入所後】 ・交流の家に登山計画書(届)を1部提出します。 ・登山時の持ち物や実施判断についての確認をします。食堂で弁当を注文した場合は、受け渡し場所や時刻も確認します。

引率者確認
事項

【登山当日～登山口到着】

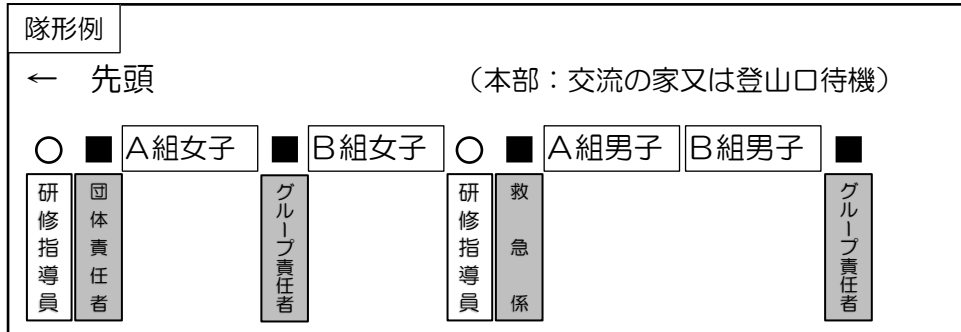
- ・団体責任者は研修指導員と7時45分に事務室にて実施の判断をします。登山判断基準は下表のとおりです。実施決定後に打合せを行います。
- ・判断基準に該当する天候の場合は、安全管理上登山の実施を中止としています。また、安全確保のために登山の途中で下山する場合があります。

警報または 注意報	大雨	強風	雷
	大雪	暴風	噴火
降水量	5mm/h 以上		
風 速	10m/s 以上		
その他	著しく気象の変化がある		
	利用者からの中止の申し入れ		
	交流の家として中止と判断したとき		

- ・団体と研修指導員は団体の車両で八方台登山口に移動します。
- ・登山口到着後にグループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。貸出物品を参加者に渡します。
- ・グループ責任者は参加者の態勢を整え、研修指導員の説明（主に安全面について）を参加者と一緒に聞きます。

【登山中】

- ・登山隊形については、引率者の配置は先頭に1名（団体責任者）～中継1名以上～後尾1名としてください。（下記例参照）



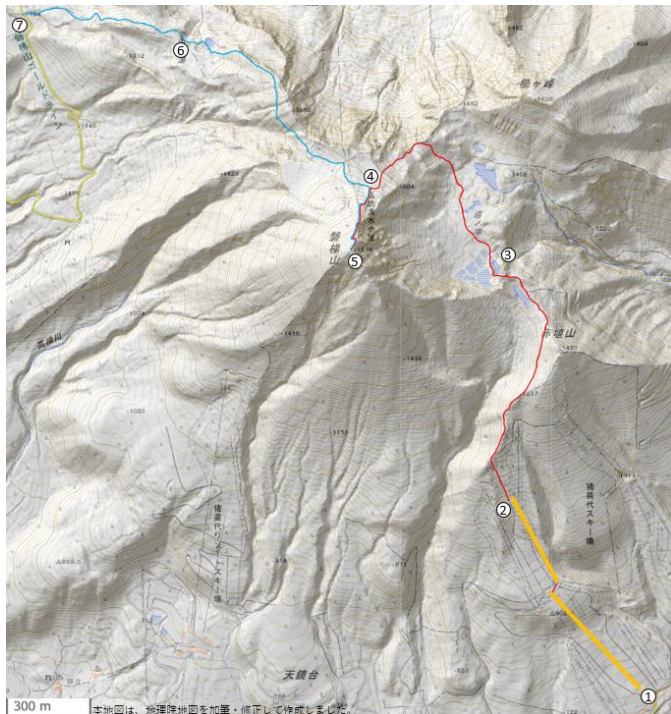
- ・グループ責任者は参加者のコースの逸脱、石を蹴る、走る、研修指導員の説明を聞かないなどの危険行為がないように指導してください。
- ・グループ責任者は休憩時などに参加者の点呼と健康観察を行います。また、研修指導員と適宜相談をして安全に活動できるように参加者を指導します。
- ・グループ責任者は水分補給を徹底させ、熱中症対策を講じてください。
- ・グループ責任者はペースが遅くなった参加者がいた場合に研修指導員と団体責任者へ状況を伝えて、指示を仰ぎます。
- ・団体責任者は傷病者が発生した場合に救急係に応急手当の指示を出し、研修指導員と相談して登山継続か下山するかを判断します。下山する場合は本部係とグループ責任者に指示を出すなど傷病者対応をします。また、天候の急変その他の事情が発生した場合は研修指導員と相談して、途中下山の判断と指示を出します。

	【下山後】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認をします。 ・グループ責任者は貸出物品を事務室に返却します。 ・団体責任者は事務室で研修指導員と振り返りを行います。
その他 留意事項	・熊との遭遇を防止するため、鈴などの鳴り物（熊鈴は貸出し可能です）を身に付けて音を鳴らしながら登ってください。また、不意な遭遇を避けるため登山道を走らないでください。もし、遭遇した場合は刺激をしないように静かに距離をとってください。 ・森の中など虫が出る所が多くありますので、参加者は虫に刺されないように対策（虫よけスプレー、長袖長ズボン）をしてください。 ・参加者は植物や樹木などを採集せずに、ゴミは持ち帰ってください。 ・弘法清水小屋のトイレを利用する場合は携帯トイレが必要です。詳しくは、弘法清水小屋のホームページ（https://koboshimizu.com/）をご確認ください。 ・研修指導員の都合によりご希望の人数が手配できない場合があります。 ・貸出物品の故意による破損や紛失の場合は弁償していただきます。

②磐梯山登山（猪苗代スキー場～八方台登山口コース）



一貫指導可（活動時間の目安：約7時間）

概要	夏季登山リフトを利用することにより、標高 1100mまで約 30 分で進むことができます。リフト降り場から猪苗代湖を一望できるとともに、道中では岩肌がむき出しになった磐梯山の裏側を眺めることもできます。 往路（登り）と復路（下り）で見る景色が異なるため、登山の楽しさが増加します。			
ねらい	集団で自然体験活動をすることで生きる力や自己有用感を育むとともに、心身の健康を図ります。			
条件	対象	小学5年生～	人数	20 名以上で実施可能 1 クラスに 1 名の引率者が必要
	時期	7 月～10 月	実施判断	引率者確認事項を参照
準備物	交流の家（貸出物品）	団体（準備物）		個人（準備物）
	☐ 熊鈴 ☐ 地図・登山マップ ☐ 方位磁針 ☐ トランシーバー（研修指導員用、引率者用）	☐ 救急セット ☐ 登山計画書 ☐ 非常時用簡易トイレ または弘法清水で簡易トイレを購入する代金 ☐ 非常用水・非常食 ☐ 携帯電話・時計		☐ デイバック ☐ 長袖・長ズボン ☐ 帽子 ☐ 水筒（水 1 ℓ 以上） ☐ 雨具
登山ルート	 ①第一リフト乗車口 ②第二リフト降車口 ③沼ノ平（休憩箇所） ④弘法清水（休憩箇所・山小屋と簡易トイレあり） ⑤磐梯山山頂（休憩箇所） ⑥中の湯（火山性ガスが出ているので長居しない） ⑦八方台登山口			
引率者の役割	団体責任者	・研修指導員との事前打合せと当日の実施判断・中断の決定をします。		

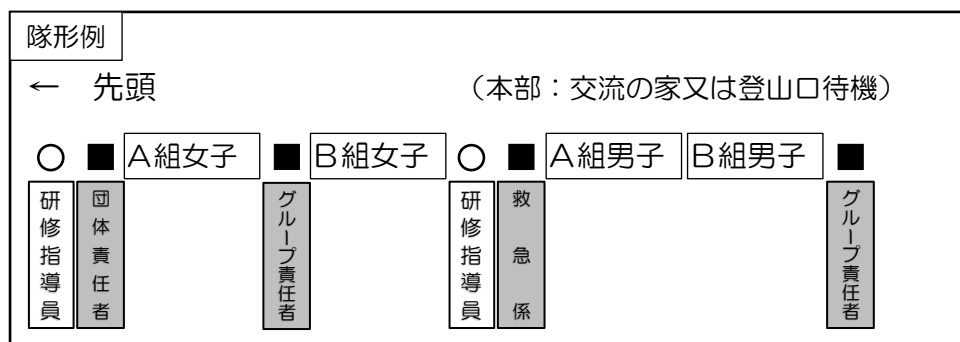
		・交流の家に下記4地点で連絡を行います。 (猪苗代スキー場・弘法清水小屋・頂上・下山後電波状況が回復次第すぐ)
	グループ 責任者	・出発前と活動中及び到着後の人数の把握と健康状態の確認をします。 ・研修指導員からの指示や注意事項などを参加者に伝えます。 (学校では担任が一般的)
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。
	本部係	交流の家又は登山口で緊急車両を用意して待機し、途中下山者対応に備えます。
研修指導員の役割		・活動当日の朝に交流の家で団体責任者と打合せをします。 ・登山口で参加者に安全面についての説明をします。 ・活動中は道案内や危険箇所状況に応じた指示を出します。 ・下山後に交流の家または現地で団体責任者と振り返りをします。
交流の家職員の役割		・物品の貸出しや回収を行います。 ・団体責任者からの連絡を受け取ります。 ・当日の朝の打合せ、下山後の振り返りの進行を行います。 ・天候等の状況に応じて、研修指導員に現状確認や安全確認の連絡を行います。
引率者確認事項		【施設入所前】 ・磐梯山の火山活動の状況を気象庁ホームページ等で確認してください。 ・登山ルートと時間配分の確認をします。登山日の活動をゆとりのある計画にしてください。 ・研修指導員を依頼する場合は入所40日前までに活動日程表に記入して提出します。目安は1クラスに対して指導員1名となります。 ・登山当日までに日程・登山形態(引率者確認事項【登山中】を参照)を計画して登山計画書(届)を2部作成します。(登山ポスト又は猪苗代警察署用に1部、交流の家用に1部) ・事前に役割分担や参加者への指導(安全指導、装備確認)などを行います。 ・実施前日の16時までに実施判断を行い、実施の有無について交流の家に連絡をします。研修指導員を依頼している場合は、実施判断について研修リーダーと相談をします。 【施設入所後】 ・交流の家に登山計画書(届)を1部提出します。 ・登山時の持ち物や実施判断についての確認をします。食堂で弁当を注文した場合は、受け渡し場所や時刻も確認します。
引率者確認事項		【登山当日～登山口到着】 ・団体責任者は研修指導員と7時45分に事務室にて実施の判断をします。登山判断基準は下表のとおりです。実施決定後に打合せを行います。 ・判断基準に該当する天候の場合は、安全管理上登山の実施を中止としています。また、安全確保のために登山の途中で下山する場合があります。

警報または 注意報	大雨	強風	雷
	大雪	暴風	噴火
降水量	5mm/h 以上		
風 速	10m/s 以上		
その他	著しく気象の変化がある		
	利用者からの中止の申し入れ		
	交流の家として中止と判断したとき		

- ・団体と研修指導員は団体の車両で猪苗代スキー場へ移動します。その後、団体の車両は八方台登山口へ移動します。
- ・登山口到着後にグループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。貸出物品を参加者に渡します。
- ・グループ責任者は参加者の態勢を整え、研修指導員の説明（主に安全面について）を参加者と一緒に聞きます。

【登山中】

- ・登山隊形については、引率者の配置は先頭に1名（団体責任者）～中継1名以上～後尾1名としてください。（下記例参照）



- ・グループ責任者は参加者のコースの逸脱、石を蹴る、走る、研修指導員の説明を聞かないなどの危険行為がないように指導してください。
- ・グループ責任者は休憩時などに参加者の点呼と健康観察を行います。また、研修指導員と適宜相談をして安全に活動できるように参加者を指導します。
- ・グループ責任者は水分補給を徹底させ、熱中症対策を講じてください。
- ・グループ責任者はペースが遅くなった参加者がいた場合に研修指導員と団体責任者へ状況を伝えて、指示を仰ぎます。
- ・団体責任者は傷病者が発生した場合に救急係に応急手当の指示を出し、研修指導員と相談して登山継続か下山するかを判断します。下山する場合は本部係とグループ責任者に指示を出すなど傷病者対応をします。また、天候の急変その他の事情が発生した場合は研修指導員と相談して、途中下山の判断と指示を出します。

【下山後】

- ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認をします。
- ・グループ責任者は貸出物品を事務室に返却します。

	• 団体責任者は事務室で研修指導員と振り返りを行います。
その他 留意事項	• 熊との遭遇を防止するため、鈴などの鳴り物（熊鈴は貸出し可能です）を身に付けて音を鳴らしながら登ってください。また、不意な遭遇を避けるため登山道を走らないでください。もし、遭遇した場合は刺激をしないように静かに距離をとってください。 • 森の中など虫が出る所が多くありますので、参加者は虫に刺されないように対策（虫よけスプレー、長袖長ズボン）をしてください。 • 参加者は植物や樹木などを採集せずに、ゴミは持ち帰ってください。 • 弘法清水小屋のトイレを利用する場合は携帯トイレが必要です。詳しくは、弘法清水小屋のホームページ（https://koboshimizu.com/）をご確認ください。 • 研修指導員の都合によりご希望の人数が手配できない場合があります。 • 貸出物品の故意による破損や紛失の場合は弁償していただきます。

③磐梯山登山（猪苗代スキー場往復コース）



一貫指導可（活動時間の目安：約4時間）

概要	標高 1427m の磐梯山二合目を目指すコースです。夏季登山リフトを利用することにより、標高 1100mまで 20 分、リフト降り場から磐梯山二合目にあたる赤埴山（あかはにやま）まで約 1 時間で進むことができます。また、下りでもリフトを利用することにより、疲れた体を癒しながら目の前に広がる猪苗代湖を楽しむことができます。			
ねらい	集団で自然体験活動を行うことで生きる力や自己有用感を育むとともに、心身の健康を図ります。			
条件	対象	小学5年生～	人数	制限はないが1クラスに1名の引率者が必要
	時期	7月～9月	実施判断	引率者確認事項を参照
準備物	交流の家(貸出物品)	団体（準備物）		個人（準備物）
	☐ 熊鈴 ☐ 地図・登山マップ ☐ 方位磁針 ☐ トランシーバー(研修指導員用、引率者用)	☐ 救急セット ☐ 登山計画書 ☐ 非常時用簡易トイレ ☐ 非常用水・非常食 ☐ 携帯電話・時計		☐ デイバック ☐ 長袖・長ズボン ☐ 帽子 ☐ 水筒（水1ℓ以上） ☐ 雨具
登山ルート	①第一リフト乗車口 ②第二リフト乗車口（トイレあり） ③第二リフト降車口 ④赤埴山（あかはにやま）山頂（休憩箇所）			

引率者の役割	団体責任者	・研修指導員との事前打合せと当日の実施判断・中断の決定をします。 ・交流の家に下記3地点で連絡を行います。 (猪苗代スキー場・頂上・下山後の猪苗代スキー場)
	グループ責任者	・出発前と活動中及び到着後の人数の把握と健康状態の確認をします。 ・研修指導員からの指示や注意事項などを参加者に伝えます。 (学校では担任が一般的)
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。
	本部係	交流の家又は登山口で緊急車両を用意して待機し、途中下山者対応に備えます。
研修指導員の役割	・活動当日の朝に交流の家で団体責任者と打合せをします。 ・登山口で参加者に安全面についての説明をします。 ・活動中は道案内や危険箇所状況に応じた指示を出します。 ・下山後に交流の家で団体責任者と振り返りをします。	
交流の家職員の役割	・物品の貸出しや回収を行います。 ・団体責任者からの連絡を受け取ります。 ・当日の朝の打合せ、下山後の振り返りの進行を行います。 ・天候等の状況に応じて、研修指導員に現状確認や安全確認の連絡を行います。	
引率者確認事項	【施設入所前】 ・磐梯山の火山活動の状況を気象庁ホームページ等で確認してください。 ・登山ルートと時間配分の確認をします。登山日の活動をゆとりのある計画にしてください。 ・研修指導員を依頼する場合は入所40日前までに活動日程表に記入して提出します。目安は1クラスに対して指導員1名となります。 ・人数によってはリフト乗車の所要時間が長くなります(第1リフトは2人で乗車して前の組と1つリフトを空け、第2リフトは間を空けずに1人ずつ乗車する)ので、余裕のある計画を立ててください。 ・登山当日までに日程・登山形態(引率者確認事項【登山中】を参照)を計画して登山計画書(届)を2部作成します。(登山ポスト又は猪苗代警察署用に1部、交流の家用に1部) ・事前に役割分担や参加者への指導(安全指導、装備確認)などを行います。 ・実施前日の16時までに実施判断を行い、実施の有無について交流の家に連絡をします。研修指導員を依頼している場合は、実施判断について研修リーダーと相談をします。 【施設入所後】 ・交流の家に登山計画書(届)を1部提出します。 ・登山時の持ち物や実施判断についての確認をします。食堂で弁当を注文した場合は、受け渡し場所や時刻も確認します。	

引率者確認
事項

【登山当日～登山口到着】

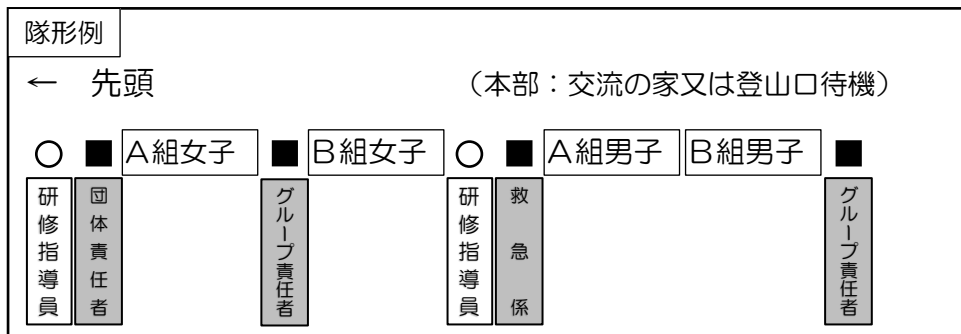
- ・団体責任者は研修指導員と7時45分に事務室にて実施の判断をします。登山判断基準は下表のとおりです。実施決定後に打合せを行います。
- ・判断基準に該当する天候の場合は、安全管理上登山の実施を中止としています。また安全確保のために登山の途中で下山する場合があります。

警報または 注意報	大雨	強風	雷
	大雪	暴風	噴火
降水量	5mm/h 以上		
風 速	10m/s 以上		
その他	著しく気象の変化がある		
	利用者からの中止の申し入れ		
	交流の家として中止と判断したとき		

- ・団体と研修指導員は団体の車両で猪苗代スキー場に移動します。
- ・登山口到着後にグループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。貸出物品を参加者に渡します。
- ・グループ責任者は参加者の態勢を整え、研修指導員の説明（主に安全面について）を参加者と一緒に聞きます。

【登山中】

- ・登山隊形については、引率者の配置は先頭に1名（団体責任者）～中継1名以上～後尾1名としてください。（下記例参照）



- ・グループ責任者は参加者のコースの逸脱、石を蹴る、走る、研修指導員の説明を聞かないなどの危険行為がないように指導してください。
- ・グループ責任者は休憩時などに参加者の点呼と健康観察を行います。また、研修指導員と適宜相談をして安全に活動できるように参加者を指導します。
- ・グループ責任者は水分補給を徹底させ、熱中症対策を講じてください。
- ・グループ責任者はペースが遅くなった参加者がいた場合に研修指導員と団体責任者へ状況を伝えて、指示を仰ぎます。
- ・団体責任者は傷病者が発生した場合に救急係に応急手当の指示を出し、研修指導員と相談して登山継続か下山するかを判断します。下山する場合は本部係とグループ責任者に指示を出すなど傷病者対応をします。また、天候の急変その他の事情が発生した場合は研修指導員と相談して、途中下山の判断と指示を出します。

	【下山後】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認をします。 ・グループ責任者は貸出物品を事務室に返却します。 ・団体責任者は事務室で研修指導員と振り返りを行います。
その他 留意事項	・熊との遭遇を防止するため、鈴などの鳴り物（熊鈴は貸出し可能です）を身に付けて音を鳴らしながら登ってください。また、不意な遭遇を避けるため登山道を走らないでください。もし、遭遇した場合は刺激をしないように静かに距離をとってください。 ・森の中など虫が出る所が多くありますので、参加者は虫に刺されないように対策（虫よけスプレー、長袖長ズボン）をしてください。 ・参加者は植物や樹木などを採集せずに、ゴミは持ち帰ってください。 ・リフト乗り場以外にトイレはありませんのでご注意ください。 ・研修指導員の都合によりご希望の人数が手配できない場合があります。 ・貸出物品の故意による破損や紛失の場合は弁償していただきます。

④五色沼探勝路ハイキング



一貫指導可 (活動時間の目安：4時間)

概要	「五色沼自然探勝路」を歩くハイキングです。磐梯山の噴火によってできた「五色沼湖沼群」を見ながら、様々な種類の植物を観察することができます。			
ねらい	集団で自然体験活動をすることで生きる力や自己有用感を育むとともに、心身の健康を図ります。			
条件	対象	小学1年生～	人数	制限なし
	時期	5月～10月	実施判断	雷注意報時は中止を検討 雷鳴時は中止(屋内避難)
準備物	交流の家(貸出物品)	団体(準備物)		個人(準備物)
	☐熊鈴 ☐地図 ☐トランシーバー (研修指導員用)	☐救急セット ☐携帯電話・時計		☐デイバック ☐長袖・長ズボン ☐帽子・水筒 ☐雨具
ハイキングルート	以下は交流の家推奨コース(裏磐梯物産館→ビジターセンター)です。 要望等に合わせてコースの変更も可能です。 五色沼自然探勝路 約4km 約2時間 凡例 P 駐車場 トイレ バス停 看板 返却場所 北 松原湖 五色沼自然探勝路 裏磐梯物産館 裏磐梯ビジターセンター 五色沼湖沼群 五色沼自然探勝路 五色沼湖沼群 <			

	・ハイキング開始地点で参加者に安全面についての説明をします。 ・活動中は道案内をしたり、危険箇所です状況に応じた指示を出したりします。 ・活動終了後に交流の家で団体責任者と振り返りをします。																				
交流の家職員の役割	・物品の貸出しや回収を行います。 ・団体責任者からの連絡を受け取ります。 ・当日出発前の打合せ、活動後の振り返りの進行を行います。 ・天候等の状況に応じて、研修指導員に現状確認や安全確認の連絡を行います。																				
引率者確認事項	【施設入所前】 ・ハイキングルートと時間配分の確認をします。ハイキングを行う日の活動をゆとりのある計画にしてください。 ・研修指導員を依頼する場合は入所 40 日前までに活動日程表に記入して提出します。目安は 1 クラスに対して指導員 1 名となります。 ・事前に役割分担や参加者への指導（安全指導、装備確認など）を行います。 ・実施前日の 16 時までに実施判断を行い、実施の有無について交流の家に連絡をします。研修指導員を依頼している場合は、実施判断について研修リーダーと相談します。 【施設入所後】 ・ハイキング時の持ち物や実施判断についての確認をします。食堂で弁当を注文した場合は、受け渡し場所や時刻も確認します。 ＜ハイキング当日＞ ・団体責任者は実施の判断をします。実施決定後に打合せを行います。 ・団体と研修指導員は団体の車両でスタート地点に移動します。 ・スタート地点到着後に、グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。貸出物品を参加者に渡します。 ・グループ責任者は参加者の態勢を整え、研修指導員の説明（主に安全面について）を参加者と一緒に聞きます。 【ハイキング中】 ・隊形については、引率者の配置は先頭に 1 名（団体責任者）～中継 1 名以上～後尾 1 名としてください。（下記例参照） 隊形例 ← 先頭 <table><tr><td>○</td><td>■</td><td>A組女子</td><td>■</td><td>B組女子</td><td>○</td><td>■</td><td>A組男子</td><td>B組男子</td><td>■</td></tr><tr><td>研修指導員</td><td>団体責任者</td><td></td><td>グループ責任者</td><td></td><td>研修指導員</td><td>救急係</td><td></td><td></td><td>グループ責任者</td></tr></table> ・グループ責任者は参加者のコースの逸脱、石を蹴る、走る、研修指導員の説明を聞かないなどの危険行為がないように指導してください。 ・グループ責任者は休憩時などに参加者の点呼と健康観察を行います。また、研修指導員と適宜相談をして安全に活動できるように参加者を指導します。	○	■	A組女子	■	B組女子	○	■	A組男子	B組男子	■	研修指導員	団体責任者		グループ責任者		研修指導員	救急係			グループ責任者
○	■	A組女子	■	B組女子	○	■	A組男子	B組男子	■												
研修指導員	団体責任者		グループ責任者		研修指導員	救急係			グループ責任者												

	・グループ責任者は水分補給を徹底させ、熱中症対策を講じてください。 ・グループ責任者はペースが遅くなった参加者がいた場合に研修指導員と団体責任者へ状況を伝えて、指示を仰ぎます。 ・団体責任者は傷病者が発生した場合に救急係に応急手当の指示を出し、研修指導員と相談してハイキング継続か中止するかを判断します。中止する場合はグループ責任者に指示を出すなど傷病者対応をします。また、天候の急変その他の事情が発生した場合は研修指導員と相談して、途中中止の判断と指示を出します。 ・団体の車両に待機場所（裏磐梯観光物産館または裏磐梯ビジターセンター（裏磐梯観光プラザ））を指示します。 【ハイキング終了後】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認をします。 ・グループ責任者は貸出物品を事務室に返却します。 ・団体責任者は事務室で研修指導員と振り返りを行います。
その他 留意事項	・熊との遭遇を防止するため、鈴などの鳴り物（熊鈴は貸出し可能です）を身に付けて音を鳴らしながら歩いてください。また、不意な遭遇を避けるためコースを走らないでください。もし、遭遇した場合は刺激をしないように静かに距離をとってください。 ・森の中など虫が出る所が多くありますので、参加者は虫に刺されないように対策（虫よけスプレー、長袖長ズボン）をしてください。 ・参加者は植物や樹木などを採集せずに、ゴミは持ち帰ってください。 ・研修指導員の都合によりご希望の人数が手配できない場合があります。 ・貸出物品の故意による破損や紛失の場合は弁償していただきます。

⑤天鏡台ハイキング



直接指導（活動時間の目安：3時間）

概要	「天鏡台（昭和の森）」という自然公園と交流の家を往復するハイキングです。			
	猪苗代湖と磐梯山の風景を楽しむことができる活動プログラムです。			
ねらい	集団で自然体験活動をすることで生きる力を育むとともに、心身の健康の充実を図ります。			
条件	対象	小学3年生～	人数	制限なし
	時期	5月～10月	実施判断	雷注意報時は中止を検討 雷鳴時は中止(屋内避難)
準備物	交流の家（貸出物品）	団体（準備物）		個人（準備物）
	☐ 熊鈴 ☐ 地図	☐ 救急セット ☐ 時計		☐ デイバック ☐ 帽子 ☐ 雨具 ☐ 水筒
ハイキングルート				

引率者の役割	団体責任者	実施判断・中断の決定をします。
	グループ責任者	出発前と活動中及び到着後の人数の把握と健康状態の確認をします。 (学校では担任が一般的)
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。
交流の家職員の役割	• 物品の貸出や回収を行います。 • 引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。	
引率者確認事項	【施設入所前】 • ハイキングルートと時間配分を確認します。 • 事前に役割分担や参加者への指導（安全指導、準備確認など）をします。 【施設入所後】 • ハイキング時の持ち物や実施判断についての確認をします。食堂で弁当を注文した場合は、受け渡し場所や時刻も確認します。	
	<ハイキング当日> • 団体責任者は実施の判断をします。 • グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。貸出物品を参加者に渡します。 • グループ責任者は安全面について指導を行い、活動を開始します。 【ハイキング中】 • 隊形については、引率者の配置は先頭に1名（団体責任者）～中継1名以上～後尾1名としてください。（下記例参照） 隊形例 ← 先頭 • グループ責任者は参加者のコースの逸脱、石を蹴る、走る、責任者の説明を聞かないなどの危険行為がないように指導してください。 • グループ責任者は休憩時などに参加者の点呼と健康観察を行います。また、責任者どうして適宜相談をして安全に活動できるように参加者を指導します。 • グループ責任者は水分補給を徹底させ、熱中症対策を講じてください。 • グループ責任者はペースが遅くなった参加者がいた場合に団体責任者へ状況を伝えて対応を協議します。 • 団体責任者は傷病者が発生した場合に救急係に応急手当の指示を出し、グループ責任者と相談してハイキング継続か中止するかを判断します。中止する場合はグループ責任者に指示を出すなど傷病者対応をします。また、天候の急変その他の事情が発生した場合はグループ責任者と相談して、途中中止の判断と指示を出します。	

	【ハイキング終了後】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認をします。 ・グループ責任者は貸出物品を事務室に返却します。
その他 留意事項	・参加者は車道を歩く際は車両の往来に気を付けてください。 ・活動前に職員が熊よけを実施しますが、遭遇を防止するため鈴などの鳴り物（熊鈴は貸出し可能です）を身に付けて音を鳴らしながら歩いてください。また、不意な遭遇を避けるためコースを走らないでください。もし、遭遇した場合は刺激をしないように静かに距離をとってください。 ・森の中など虫が出る所が多くありますので、参加者は虫に刺されないように対策（虫よけスプレー、長袖長ズボン）をしてください。 ・貸出物品の故意による破損や紛失の場合は弁償していただきます。

⑥ナイトハイク



間接指導【活動時間の目安：30分～1時間】

概要	交流の家の敷地内コースを夜間歩く活動です。視覚がさえぎられることにより視覚以外の感覚が鋭敏になり、普段気づかない「音」や「におい」、「風の流れ」などを感じることで感性を磨くことができます。コースは最長約2kmとなり、ショートカットで短縮することも可能です。			
ねらい	夜間に自然に親しむとともに、心身の健康の充実を図ります。			
条件	対象	小学1年生～	人数	制限なし
	時期	5月～11月第1週	実施判断	雷注意報時は中止を検討 雷鳴時は中止(屋内避難)
準備物	交流の家（貸出物品）	団体（準備物）		個人（準備物）
	□地図 □熊鈴	□救急セット		□雨具 □長袖、長ズボン □懐中電灯

ナイトハイク
ルート



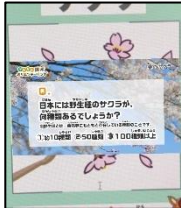
引率者の役割	団体責任者	実施判断・中断の決定をします。また安全の確保のために引率者のコース配置を指示します。
	グループ責任者	活動前後の人数の把握と健康状態の確認をします。 (学校では担任が一般的)
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。
交流の家職員の役割	• 物品の貸出や回収を行います。 • 引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。	
引率者確認事項	【施設入所前・入所後】 • 明るいうちにナイトハイクルートを下見し（実際に歩き）、所要時間や危険箇所、引率者の配置場所等を確認します。（事前見学の際に下見を行うことも可能） • 引率者間で役割分担をし、参加者へ事前指導（安全指導・準備確認など）をします。	
	【ナイトハイク当日】 • 団体責任者は実施の判断をします。 • グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。貸出物品を参加者に渡します。 • グループ責任者は安全面について指導を行い、活動を開始します。 【ナイトハイク中】 • 隊形については、引率者の配置は先頭に1名（団体責任者）～中継1名以上～後尾1名として集団で歩く方法もあります。（下記例参照） 隊形例 • グループ責任者は参加者のコースの逸脱、石を蹴る、走る、責任者の説明を聞かないなどの危険行為がないように指導してください。 • グループ責任者は休憩時などに参加者の点呼と健康観察を行います。また、責任者どうして適宜相談をして安全に活動できるように参加者を指導します。 • 引率者は配置された場所に待機して、各グループの通過や安全確認を行います。 • グループ責任者は水分補給を徹底させ、熱中症対策を講じてください。 • グループ責任者はペースが遅くなった参加者がいた場合に団体責任者へ状況を伝えて対応を協議します。 • 団体責任者は傷病者が発生した場合に救急係に応急手当の指示を出し、グループ責任者と相談して活動を継続するか中止するかを判断します。中止する場合はグループ責任者に指示を出すなど傷病者対応をします。また、天候の急変その他の事情が発生した場合はグループ責任者と相談して、途中中止の判断と指示を出します。	

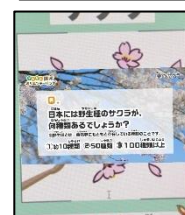
	【ナイトハイク終了後】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認をします。 ・グループ責任者は貸出物品を事務室に返却します。
その他 留意事項	・参加者は懐中電灯を一人1個準備してください。 ・団体責任者及びグループ責任者は、参加者がコースや集団から離れないように適宜連絡を取り合ってください。 ・熊との遭遇を防止するため、鈴などの鳴り物（熊鈴は貸出し可能です）を身に付けて音を鳴らしながら歩いてください。また、不意な遭遇を避けるためコースを走らないでください。もし、遭遇した場合は刺激をしないように静かに距離をとってください。 ・森の中など虫が出る所が多くありますので、参加者は虫に刺されないように対策（虫よけスプレー、長袖長ズボン）をしてください。 ・活動の途中で立ち止まって明かりを消し、声も音も出さない時間を作るとより自然を感じることができます。 ・貸出物品の故意による破損や紛失の場合は弁償していただきます。

⑦デジタル樹木オリエンテーリング



直接指導（活動時間の目安：1.5 時間～2 時間）

概要	「地図」を手がかりに交流の家の敷地内にある15種類の樹木に設置されたAR マーカーを見つけてスマートフォンで読み取ります。表示されたそれぞれの樹木に関する問題に答えることを通して、樹木をはじめとする森の生物のヒミツについて理解を深める活動です。 屋外と同じAR マーカーが屋内にも設置されているので通年で活動できます。5月～11月の間は実際の植物の姿と問題の内容を比較しながら活動でき、さらに理解が深まるので屋外での活動をおすすめします。				
ねらい	自然への理解を深めるとともに、協調性の育成を図ります。				
条件	対象	小学1年生～	人数	制限なし	
	時期	通年	実施判断	雷注意報時は屋内での活動を検討 雷鳴時は中止(屋内避難)	
準備物	交流の家（貸出物品）		団体（準備物）	個人（準備物）	
	□オリエンテーリングセット （バインダー・手引き・解答用紙） □スマートフォン □熊鈴		□救急セット □時計	□筆記用具 □長袖、長ズボン □帽子 □雨具 □タオル □水筒	
引率者の役割	団体責任者	実施判断・中断の決定をします。また発着地点で全体の総括、指揮、連絡をします			
	グループ責任者	・活動前後の人数の把握と健康状態の確認をします。 ・発着地点で計時、記録、集計、順位の決定をします。 ・安全の確保と事故防止のためのコース巡回をします。 （学校では担任が一般的） ・スマートフォンを私的に利用しないように指導します。			
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。			
交流の家職員の役割	・物品の貸出しや回収を行います。 ・引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。				
活動の流れ	【活動実施前に引率者が行うこと】 ・引率者間で役割分担をし、参加者へ事前指導（安全指導・準備確認など）をします。 【活動】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。貸出物品を参加者に渡します。 ・グループ責任者は安全面について指導を行い、活動を開始します。 ・1月～4月と荒天時等は、屋内に設置されたAR マーカーで同一の活動をすることができます。 【実施後】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をし、貸出物品を回収します。回収した物品は事務室に返却します。 ・参加者は答え合わせをして得点を出します。			 	



安全管理 留意事項	○引率者は適宜コース内を巡回してください。また、引率者同士で適宜連絡を取り合ってください。 ○参加者は走らずに同じグループで一緒に行動してください。また、道が分からなくなった場合は来た道を引き返してください。 ○森の中など虫が出る所が多くありますので、参加者は虫に刺されないように対策（虫よけスプレー、長袖長ズボン）をしてください。 ○引率者は水分補給を徹底させ、熱中症対策を講じてください。 ○貸出物品の故意による破損・紛失の場合は弁償していただきます。 ○スマートフォン同士での通話や活動している地点の確認はできません。
----------------------	---

⑧モリトミライ（森林学習カードゲーム）



一貫指導（活動時間の目安：約2～2.5時間）

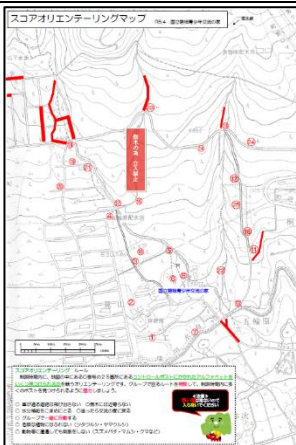
概要	小学校高学年から大人まで、楽しみながら森林の現状や持続的活用に関して理解し、適切に木を切って活用しながら森林資源を循環させることの大切さを学べます。参加者同士で主体的にコミュニケーションをとりながら展開されていくので、集団作りのツールとしても非常に有効です。指導は公認ファシリテーターが責任をもって行います。			
ねらい	森の問題を知り、今の暮らしにあった森との新しい関わりや持続可能な森林の活用について学ぶとともに、協調性を養うことができます。			
条件	対象	小学5年生～	人数	10名以上 (最大人数は応相談)
	時期	通年	実施判断	—
準備物	交流の家(貸出物品)	団体(準備物)		個人(準備物)
	□モリトミライセット □ホワイトボード □ホワイトボードマーカー □モニター □PC	特になし		特になし
引率者の役割	団体責任者	時間管理や全体の状況把握、活動の指導をします。		
	グループ責任者	活動中の人数の把握と健康状態の確認をします。 (学校では担任が一般的)		
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。		
交流の家職員の役割	・活動の準備、指導を行います。			
引率者確認事項	【施設入所前】 ・活動の流れやねらいについて公認ファシリテーターと対面またはオンラインで打合せをします。(20分程度) ・必要に応じて参加者のグループ分けを入所前に行います。公認ファシリテーター1人につき10名～40名まで指導可能です。 【活動】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。 【実施後】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をし、貸出物品を回収します。			
その他留意事項	・活動のねらいの共有や事前のグループ分けのために公認ファシリテーターと対面またはオンラインでの事前打合せを必ず行ってください。 ・貸出物品の故意による破損や紛失の場合は弁償していただきます。 ・指導可能時間は9:00～17:00となります。アウトリーチ(訪問指導)のご要望がある場合はご相談ください。			

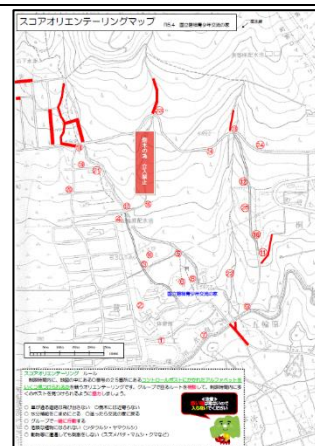


⑨スコアオリエンテーリング



直接指導（活動時間の目安：2時間～3.5時間）

概要	地図に描かれた 25 個のコントロールポスト（下の写真）を歩いて探し、解答用紙には数字と対になっているアルファベットを記入します。見つけた数に応じて点数を獲得する活動プログラムです。				
ねらい	協調性の育成と心身の健康の充実を図ります。				
条件	対象	小学3年生～	人数	制限なし	
	時期	5月～11月第1週	実施判断	雷注意報時は中止を検討 雷鳴時は中止(屋内避難)	
準備物	交流の家（貸出物品）	団体（準備物）		個人（準備物）	
	□オリエンテーリング セット（バインダー ー・手引き・地図・ 解答用紙） □熊鈴	□救急セット □時計		□筆記用具 □長袖、長ズボン □帽子 □雨具 □タオル □水筒	
引率者の役割	団体責任者	・実施判断・中断の決定をします。また発着地点で全体の総括、指揮、連絡をします。 ・安全の確保のために引率者のコース配置を指示します。			
	グループ 責任者	・活動前後の人数の把握と健康状態の確認をします。 ・発着地点で計時、記録、集計、順位の決定をします。 ・安全の確保と事故防止のためのコース巡回をします。 (学校では担任が一般的)			
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。			
交流の家職員の 役割	・物品の貸出しや回収を行います。 ・引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。				
活動の流れ	【活動実施前に引率者が行うこと】 ・引率者間で役割分担をし、参加者へ事前指導（安全指導・準備確認など）をします。 【活動】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。貸出物品を参加者に渡します。 ・グループ責任者は安全面について指導を行い、活動を開始します。 ・引率者は配置された場所に待機して、各グループの通過や安全確認を行います。 【実施後】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をし、貸出物品を回収します。回収した物品は事務室に返却します。 ・参加者は答え合わせをして得点を出します。				
				5 N	



安全管理 留意事項	○引率者の配置は本部と地図の⑨⑬⑱付近にしてください。また、引率者同士で各グループの通過などの連絡を適宜取り合ってください。 ○参加者は走らずに同じグループで一緒に行動してください。道が分からなくなった場合は来た道を引き返してください。 ・活動前に職員が熊よけを実施しますが、遭遇を防止するため鈴などの鳴り物（熊鈴は貸出し可能です）を身に付けて音を鳴らしながら歩いてください。また、不意な遭遇を避けるためコースを走らないでください。もし、遭遇した場合は刺激をしないように静かに距離をとってください。 ○参加者は森の中など虫が出る所が多くありますので、虫に刺されないように対策（虫よけスプレー、長袖長ズボン）をしてください。 ○引率者は水分補給を徹底させ、熱中症対策を講じてください。 ○貸出物品の故意による破損・紛失の場合は弁償していただきます。
----------------------	--

⑩屋外こどもこオリエンテーリング



直接指導（活動時間の目安：1.5 時間～2 時間）

概要	交流の家の敷地を利用した屋外活動プログラムです。写真シートに示される 20 か所のポイントがどこにあるのかを見つけて地図に記入します。見つけた数に応じて点数を獲得する活動プログラムです。			
ねらい	自然に親しみ、協調性の育成を図ります。			
条件	対象	小学 1 年生～	人数	制限なし
	時期	5 月～11 月第 1 週	実施判断	雷注意報時は中止を検討 雷鳴時は中止(屋内避難)
準備物	交流の家(貸出物品)	団体(準備物)	個人(準備物)	
	□オリエンテーリング セット【バインダー ー・手引き・地図・ 解答用紙】 □熊鈴	□救急セット □時計	□筆記用具 □長袖、長ズボン □帽子 □雨具 □タオル □水筒	
引率者の役割	団体責任者	実施判断・中断の決定をします。また発着地点で全体の総括、指揮、連絡をします。		
	グループ責任者	・人数の把握と健康状態の確認をします。 ・発着地点で計時、記録、集計、順位の決定をします。 ・安全の確保と事故防止のためのコース巡回をします。 (学校では担任が一般的)		
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。		
交流の家職員の役割	・物品の貸出しや回収を行います。 ・引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。			
活動の流れ	【活動実施前に引率者が行うこと】 ・引率者間で役割分担をし、参加者へ事前指導(安全指導・準備確認など)をします。			
	【活動】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。貸出物品を参加者に渡します。 ・グループ責任者は安全面について指導を行い、活動を開始します。 【実施後】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をし、貸出物品を回収します。回収した物品は事務室に返却します。 ・参加者は答え合わせをして得点を知ります。			
安全管理留意事項	○引率者は適宜コース内を巡回してください。また、引率者同士で適宜連絡を取り合ってください。 ○参加者は走らずに同じグループで一緒に行動してください。また、道が分からなくなった場合は来た道を引き返してください。 ○参加者は森の中など虫が出る所が多くありますので、虫に刺されないように対策(虫よけスプレー、長袖長ズボン)をしてください。 ○引率者は水分補給を徹底させ、熱中症対策を講じてください。 ○貸出物品の故意による破損・紛失の場合は弁償していただきます。			



⑪屋内こどこオリエンテーリング



直接指導（活動時間の目安：1.5 時間～2 時間）

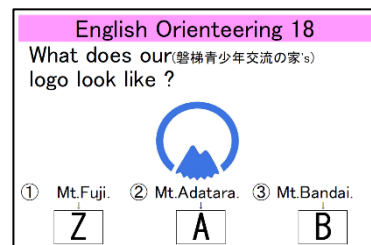
概要	交流の家館内で行う活動プログラムです。写真シートに示される 20 か所のポイントがどこにあるのかを見つけ、地図に記入します。見つけた数に応じて点数を獲得する活動プログラムで雨天でも活動することができます。			
ねらい	館内の各場所を知るとともに、協調性の育成を図ります。			
条件	対象	小学 1 年生～	人数	制限なし
	時期	通年	実施判断	—
準備物	交流の家（貸出物品）	団体（準備物）		個人（準備物）
	□オリエンテーリングセット（バインダー・手引き・写真シート・解答用紙・解答）	□救急セット		□筆記用具
引率者の役割	団体責任者	実施判断・中断の決定をします。また発着地点で全体の総括、指揮、連絡をします。		
	グループ責任者	・活動前後の人数の把握と健康状態の確認をします。 ・発着地点で計時、記録、集計、順位の決定をします。 ・安全の確保と事故防止のためのコース巡回をします。 (学校では担任が一般的)		
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。		
交流の家職員の役割	・物品の貸出しや回収を行います。 ・引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。			
活動の流れ	【活動実施前に引率者が行うこと】 ・引率者間で役割分担をし、参加者へ事前指導（安全指導・準備確認など）をします。 【活動】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。貸出物品を参加者に渡します。 ・グループ責任者は安全面について指導を行い、活動を開始します。 【実施後】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をし、貸出物品を回収します。回収した物品は事務室に返却します。 ・参加者は答え合わせをして得点を知ります。			
安全管理留意事項	○参加者は走らずに同じグループで一緒に行動してください。 ○参加者は交流の家館内地図の塗りつぶし箇所（立ち入り禁止場所）には入らないでください。 ○貸出物品の故意による破損・紛失の場合は弁償していただきます。			

⑫イングリッシュオリエンテーリング



直接指導（活動時間の目安：1.5 時間～2 時間）

概要	交流の家館内で行う活動プログラムです。ヒント地図を参考に英語で書かれたクイズ探して解答する活動プログラムです。問題は 20 問あり、全てのクイズに答えると最後にスペシャルクイズが1 つ現れます。			
ねらい	館内の各場所を知るとともに、協調性の育成と英語への興味・関心の向上を図ります。			
条件	対象	小学3年生～6年生	人数	制限なし
	時期	通年	実施判断	—
準備物	交流の家（貸出物品）	団体（準備物）		個人（準備物）
	□オリエンテーリングセット（バインダー・手引き・ヒント図・地図・解答用紙・解答）	□救急セット		□筆記用具
引率者の役割	団体責任者	実施判断・中断の決定をします。また発着地点で全体の総括、指揮、連絡をします。		
	グループ責任者	・活動前後の人数の把握と健康状態の確認をします。 ・発着地点で計時、記録、集計、順位の決定をします。 ・安全の確保と事故防止のためのコース巡回をします。 (学校では担任が一般的)		
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。		
交流の家職員の役割	・物品の貸出しや回収を行います。 ・引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。			
活動の流れ	【活動実施前に引率者が行うこと】 ・引率者間で役割分担をし、参加者へ事前指導（安全指導・準備確認など）をします。 【活動】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。貸出物品を参加者に渡します。 ・グループ責任者は安全面について指導を行い、活動を開始します。 【実施後】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をし、貸出物品を回収します。回収した物品は事務室に返却します。 ・参加者は答え合わせをして得点を知ります。			English Orienteering 18 What does our(磐梯青少年交流の家's) logo look like ?  ① Mt.Fuji. ② Mt.Adataro. ③ Mt.Bandai. Z A B
	安全管理留意事項	○参加者は走らずに同じグループで一緒に行動してください。 ○表現解答があるので、引率者は解答を事前に確認してください。 ○参加者は交流の家館内地図の塗りつぶし箇所（立ち入り禁止場所）には入らないでください。 ○貸出物品の破損・紛失の場合は弁償していただきます。		



概要	交流の家館内で行う活動プログラムです。館内に隠されたチェックカードを探し、『助手』『探偵』『名探偵』の3つのレベルのなぞ解きに挑戦することができます。雨天でも活動することができます。						
ねらい	グループ内でのコミュニケーションを促進し、協調性を養うことができます。						
条件	対象	小学1年生～	人数	制限なし			
	時期	通年	実施判断	—			
準備物	交流の家（貸出物品）	団体（準備物）		個人（準備物）			
	□ばんせい探偵団セット（バインダー・解答用紙・手引き・地図・解答）	□救急セット		□筆記用具			
引率者の役割	団体責任者	実施判断・中断の決定をします。また発着地点で全体の総括、指揮、連絡をします。					
	グループ責任者	- 活動前後の人数の把握と健康状態の確認をします。 - 発着地点で計時、記録、集計、順位の決定をします。 - 安全の確保と事故防止のためのコース巡回をします。 （学校では担任が一般的）					
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。					
交流の家職員の役割	- 物品の貸出しや回収を行います。 - 引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。						
活動の流れ	【活動実施前に引率者が行うこと】 - 引率者間で役割分担をし、参加者へ事前指導（安全指導・準備確認など）をします。 【活動】 - グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。貸出物品を参加者に渡します。 - グループ責任者は安全面について指導を行い、活動を開始します。 【実施後】 - グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をし、貸出物品を回収します。回収した物品は事務室に返却します。 - 引率者は謎解きの採点をし、参加者に得点を伝えます。						
安全管理留意事項	○参加者は走らずに同じグループで一緒に行動してください。 ○参加者は交流の家館内地図の塗りつぶし箇所以外（立ち入り禁止場所）には入らないでください。 ○貸出物品の破損・紛失の場合は弁償していただきます。						

⑭野外炊飯（カレーライス・焼肉）



一貫指導可（活動時間の目安：3時間）

概要	仲間と協力しながら、野外炊飯棟でカレーや焼肉を作ります。			
ねらい	グループで取り組むことで協調性や計画性を養います。また、食材を無駄にすることのないように活動を行うことで、食べ物への感謝を意識させます。			
条件	対象	小学3年生～ ※夕食は中学生～大学生の教育活動に則った団体のみ対象	人数	10名～200名
	時期	5月～11月第1週	実施判断	落雷時は一時中断
準備物	交流の家（貸出物品）		団体（準備物）	個人（準備物）
	☐ 食器セット（6人分） （皿、スプーン、まな板、しゃもじ、ボウル、ザル、ピーラー、おたま、フライ返し） ☐ その他の調理道具 （かまど、羽釜、鉄板、つる鍋、トング、菜箸、耐火グローブ、火ばさみ、はし） ☐ 食材（有料） ☐ 薪（有料） ☐ 新聞紙 ☐ 点火用具（マッチやライター） ☐ ふきん・台ふきん ☐ クレンザー（鍋底に塗る用） ☐ 食器洗い用洗剤 ☐ スポンジ、たわし、金たわし		☐ 救急セット ☐ 虫除けスプレー等	☐ 長袖 ☐ 長ズボン ☐ タオル ☐ 軍手 （綿100%、ゴム素材がついていないもの）
引率者の役割	団体責任者	・活動の一時中断の決定をします。また活動全体の総括、指揮、連絡をします。 ・安全の確保と事故防止のために引率者の配置を指示します。		
	グループ責任者	・活動前後の点呼を行います。 ・火や刃物を取り扱う場面での適切な管理・指導をします。 （学校では担任が一般的）		
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。		
交流の家職員の役割	・引率者に活動場所と野外炊飯倉庫の場所と説明をします。 ・物品の貸出しを行います。 ・貸出物品の返却前に点検をします。			
活動の流れ	【施設入所前に引率者が行うこと】 ・6人1班で、班を構成します。 ・6人で割り切れない場合には、1つの班のみ端数で構成できます。 （正しい例）40人の場合→6人×6班、4人×1班 （誤った例）40人の場合→6人×2班、7人×4班 ・交流の家ホームページにある野外炊飯動画を参加者に視聴させ、事前指導（安全指導・準備確認など）を行います。			

	・「食事・活動物品申込書」に野外炊飯の実施人数を記入して提出します。食材を購入する場合は、入所 40 日前までに「食事・活動物品申込書」を提出します。薪については、退所日に「使用した束数」を売店で申告します。 【活動】 ・団体責任者は開始時間（10 時、15 時）に野外炊飯倉庫で食材の引き渡しに立会い、用具や活動場所についての説明を受けます。 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。その後安全面について指導を行います。 ・団体責任者は活動する炊飯棟や野外炊飯倉庫、薪置場などの場所を参加者に説明します。また、引率者にかまど置場と薪置場への配置を指示します。 ・引率者は薪置場で参加者に安全に物品を渡します。（軍手着用） ・引率者は交流の家職員から包丁を受け取ります。 包丁は炊飯棟の中までかごに入れて運び、参加者に安全に渡します。 ・参加者は食器や調理器具の数を確認してから食器を洗い、調理を開始します。 ・団体責任者は検食用の検体として約 50 g（鶏卵 1 個分程度）を採取し、検食袋に入れて野外炊飯棟の冷蔵庫の所定の場所へ提出します。なお、団体で持ち込んだ食材の提出は不要です。 【実施後】 ・団体責任者は点検開始 10 分前に交流の家事務室へ電話し、点検の依頼をします。（電話を受けた 10 分後に職員が点検を開始します。） ・参加者は使用した食器や調理器具を洗い、ふきんで水滴を拭き上げます。かまどの中の炭は全てドラム缶の中に入れます。 ・引率者と参加者は使用した炊飯棟のテーブルや床、排水溝、トイレなどを清掃します。また、ゴミは分別してゴミ箱に捨てます。 ・参加者は交流の家職員による食器点検後に、食器や調理器具を返却します。包丁は炊飯棟の中で引率者が回収し、野外炊飯倉庫まで運びます。
安全管理 留意事項	○活動は、昼食の場合は 10 時から 13 時、夕食は 15 時から 18 時までとなります。なお、活動の進行により 18 時を過ぎた場合、または点検が 18 時 30 分までに終了しなかった場合は翌日 9 時以降に点検を受けていただきます。 ○片付けについては、交流の家職員の点検を受けた後に食器や調理用具を野外炊飯倉庫の所定の位置に戻します。

⑮特別野外炊飯



(食堂に注文可能なメニューもしくはオリジナルメニュー)

間接指導 (活動時間の目安: 任意 ※夜は 20 時まで)

※交流の家職員は道具の貸出しと点検のみを行います。指導は行いませんので、動画などで活動方法や流れについては事前にご確認ください。

概要	仲間と協力しながら、野外炊飯棟で調理を行います。			
ねらい	グループで取り組むことで協調性や計画性を養います。また、食材を無駄にすることのないように活動を行うことで、食べ物への感謝を意識させます。			
条件	対象	幼児～	人数	10名～200名
	時期	5月～11月第1週	実施判断	落雷時は一時中断
準備物	交流の家（貸出物品）		団体（準備物）	個人（準備物）
	☐ 食器セット（6人分） （皿、スプーン、まな板、しゃもじ、ボウル、ザル、ピーラー、おたま、フライ返し） ☐ その他の調理道具 （かまど、羽釜、鉄板、つる鍋、トンゴ、菜箸、耐火グローブ、火ばさみ、はし） ☐ 食材（食堂業者に注文または団体で持参） ☐ 薪（有料） ☐ 新聞紙 ☐ 点火用具（マッチやライター） ☐ ふきん・台ふきん ☐ クレンザー（鍋底に塗る用） ☐ 食器洗い用洗剤 ☐ スポンジ、たわし、金たわし		☐ 救急セット ☐ 虫除けスプレー等	☐ 長袖 ☐ 長ズボン ☐ タオル ☐ 軍手 （綿100%、ゴム素材がついていないものの）
引率者の役割	団体責任者	・活動の一時中断の決定をします。また活動全体の総括、指揮、連絡をします。 ・安全の確保と事故防止のために引率者の配置を指示します。		
	グループ責任者	・活動前後の点呼を行います。 ・火や刃物を取り扱う場面での適切な管理・指導をします。		
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。		
交流の家職員の役割	・引率者に活動場所と野外炊飯倉庫の場所と説明をします。 ・物品の貸出しを行います。 ・貸出物品の返却前に点検をします。			
活動の流れ	【施設入所前に引率者が行うこと】 ・交流の家ホームページにある野外炊飯動画を参加者に視聴させ、事前指導（安全指導・準備確認など）を行います。 ・「食事・活動物品申込書」に野外炊飯の実施人数を記入して提出します。食材を購入する場合は、入所40日前までに「食事・活動物品申込書」を提出します。食材は6人セットでの購入になります。6人で割り切れない場合には、1つの班のみ端数で構成できます。 （正しい例）40人の場合→6人×6班、4人×1班 （誤った例）40人の場合→6人×2班、7人×4班 ・薪については、退所日に「使用した束数」を売店で申告します。			
	【活動】			

	・団体責任者は開始時間に野外炊飯倉庫で物品の貸出しや食材の引き渡しに立会い、用具や活動場所についての説明を受けます。 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。その後安全面について指導を行います。 ・団体責任者は活動する炊飯棟や野外炊飯倉庫、薪置場などの場所を参加者に説明します。また、引率者にかまど置場と薪置場への配置を指示します。 ・引率者は薪置場で参加者に安全に物品を渡します。(軍手着用) ・引率者は交流の家職員から包丁を受け取ります。 包丁は炊飯棟の中までかごに入れて運び、参加者に安全に渡します。 ・参加者は食器や調理器具の数を確認してから食器を洗い、調理を開始します。 ・団体責任者は検食用の検体として約 50g (鶏卵 1 個分程度) を採取し、検食袋に入れて野外炊飯棟の冷蔵庫の所定の場所へ提出します。 なお、団体に持ち込んだ食材を使用した場合は提出不要です。 【実施後】 ・参加者は使用した食器や調理器具を洗い、ふきんで水滴を拭き上げます。燃え残った炭は全てドラム缶の中に入れます。 ・引率者と参加者は使用した炊飯棟のテーブルや床、排水溝、トイレなどを清掃します。また、ゴミは分別してまとめます。生ゴミが入った袋はポリバケツに入れて野外炊飯倉庫に保管し、その他のゴミはゴミ置場に捨てます。 ・参加者は交流の家職員による食器点検後に、食器や調理器具を返却します。包丁は炊飯棟の中で引率者が回収します。
安全管理 留意事項	○かまどの中の炭はドラム缶の中に入れて 20 時までには消火してください。 ○片付けについては、交流の家職員の点検を受けた後に食器や調理用具を野外炊飯倉庫の所定の位置に戻します。 ○野外炊飯棟での喫煙、飲酒はできません。
特別野外炊飯における きまり	○物品の貸出しを希望する場合は職員立会いのもと貸出カードに貸出数を記入します。物品の貸出しは 16 時までとなります。また、返却時の点検は 9 時以降になります。 ○刃物は野外炊飯倉庫には置かず団体に責任をもって管理してください。包丁を借用した場合、夜間は事務室に預け、次の調理開始前に受け取ってください。朝は 6 時 30 分以降に事務室でお渡しします。 ○食堂業者に注文した食材の受け渡しは野外炊飯倉庫で行い、9 時 30 分～10 時 30 分 (米の炊き渡しは希望の時間)、14 時 30 分～16 時 (米の炊き渡しは 17 時 30 分まで) となります。 ○借用した物品や団体に持参した食材や調理器具などは野外炊飯倉庫の決められた場所に置いて保管してください。 ○持ち込んだ食材を冷蔵庫で保管する場合は団体名を記入し、持込食材用の冷蔵庫に入れてください。取違え等についての責任は負えません。 なお、冷蔵庫の容量には限りがあります。複数の団体に使用する場合、一部の食材のみの保管となる場合もあります。あらかじめご了承ください。

⑩赤べこの絵付け



直接指導（活動時間の目安：1～1.5 時間）

概要	赤く塗られた牛の張り子に、白と黒のアクリル絵の具やポスターカラーペンで模様を描く活動プログラムです。			
ねらい	日本の伝統工芸について学び、創造性と独創性を豊かにします。			
条件	対象	幼児～	人数	制限なし
	時期	通年	実施判断	—
準備物	交流の家・業者（貸出物品）		団体（準備物）	個人（準備物）
	□赤べこ…1,200 円 □筆、塗料（白と黒） □ポスターカラーペン □説明資料（指導の手引き） □新聞紙		□ゴミ袋	□汚れてもいい服装
引率者の役割	団体責任者	時間管理や全体の状況把握、活動の指導をします。		
	グループ責任者	活動中の人数の把握と健康状態の確認をします。 （学校では担任が一般的）		
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。		
交流の家職員の役割	・物品の貸出しや回収を行います。 ・引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。			
活動の流れ	【施設入所前に引率者が行うこと】 ・実施 40 日前までに活動日程表に個数を記入して提出します。			
	【活動実施前に引率者が行うこと】 ・事務室で赤べこの個数を確認します。交流の家職員から活動の流れと留意事項についての説明を聞き、指導用資料を受け取ります。 ・新聞紙を活動場所に敷き、指導用資料をもとに活動の説明をします。絵の具や筆洗いバケツ、ポスターカラーペンは5～6人で一緒に使用します。			
	【活動】 ・引率者は参加者に作成手順と留意点を説明します。 ・参加者は絵の具やポスターカラーペンで赤べこに絵付けをします。白色やうすい色から塗り、塗り終えたら黒色やこい色を塗ります。絵の具を変える時は筆を洗うか、一緒に絵付けをする人と筆を交換します。絵付けが終わったら 10～15 分程度その場に置いて乾燥させます。			
	【実施後】 ・グループ責任者は貸出物品を回収します。回収した物品は事務室に返却します。 ・引率者と参加者で実施場所を清掃し、机・椅子などを使用前の状態に整頓します。 ・ゴミをまとめてゴミ置場に捨てます。			
安全管理留意事項	○指導は引率者での実施となります。指導用資料が事前に必要な場合はご連絡ください。 ○荒天時の代替プログラムとしての計画ができます。 ○作品は当日持ち帰ることができます。			



⑰流紋焼き（絵付け）



一貫指導（活動時間の目安：1.5 時間）

概要	素焼きした器に釉薬（ゆうやく）で模様を描きます。濃青、こげ茶、緑の釉薬（ゆうやく）から組み合わせて絵付けをし、作品をつくります。			
ねらい	日本の伝統工芸について学び、創造性と独創性を豊かにします。			
条件	対象	幼児～	人数	20 名以上
	時期	通年	実施判断	—
準備物	交流の家・業者（貸出物品）		団体（準備物）	個人（準備物）
	☐ 素焼きの器 湯のみ/皿/コーヒーカップ ……1,300 円 マグカップ ……1,800 円 ☐ 筆・釉薬（ゆうやく） ☐ 新聞紙 ☐ 説明資料（指導の手引き）		☐ 特になし	☐ 汚れてもよい服装
引率者の役割	団体責任者	時間管理や全体の状況把握、活動の指導をします。		
	グループ責任者	活動中の人数の把握と健康状態の確認をします。 （学校では担任が一般的）		
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。		
交流の家職員の役割	・物品の貸出しや回収を行います。 ・引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。			
活動の流れ	【施設入所前に引率者が行うこと】 ・入所 40 日前までに活動日程表に器の種類と個数を記入して提出します。			
	【活動実施前に引率者が行うこと】 ・活動場所で業者から活動の流れと留意事項についての説明を聞きます。 ・新聞紙を活動場所に敷いてから釉薬（ゆうやく）を置き、筆洗い用の桶に水を入れます。釉薬（ゆうやく）も桶も2～3人で一緒に使用します。 【活動】 ・団体責任者は業者と打ち合わせをして進行をします。 ・参加者は釉薬（ゆうやく）を素焼きの器に絵付けします。釉薬（ゆうやく）は混ぜずに使用します。色を変える場合は桶で筆を洗うか、一緒に絵付けをする人と筆を交換します。 ・その場に置いて乾燥させます。（焼き上げは業者が行います。） 【実施後】 ・引率者と参加者で実施場所を清掃し、机・椅子などを使用前の状態に整頓します。			
安全管理留意事項	○業者が指導できない場合は実施できません。 ○荒天時の代替プログラムとしての計画ができます。 ○作成した器は業者が窯で焼き上げるため、完成までに 1～2 ヶ月程度の時間を要します。 <u>別途送料が必要です</u> 。お届け先をお知らせください。詳細については業者までお問合せをお願いします。 （窯元流紋焼 tel：0242-56-2221）			



⑱流紋焼き（手びねり）



一貫指導（活動時間の目安：2時間）

概要	自分の手で粘土から皿やカップなど様々な形を作る体験です。形ができたら濃青、つや消し黒、緑、水色の釉薬（ゆうやく）から1色を選んで、職人の方に着色していただきます。窯の中で釉薬（ゆうやく）が溶けて流れ、種々様々な紋様が浮かび上がった作品ができあがります。			
ねらい	日本の伝統工芸について学び、創造性と独創性を豊かにします。			
条件	対象	幼児～	人数	20名以上
	時期	通年	実施判断	—
準備物	交流の家・業者（貸出物品）	団体（準備物）		個人（準備物）
	□500g 粘土…1,600円 □釉薬（ゆうやく） □新聞紙	□特になし		□汚れてもよい服装
引率者の役割	団体責任者	時間管理や全体の状況把握、活動の指導をします。		
	グループ責任者	活動中の人数の把握と健康状態の確認をします。 （学校では担任が一般的）		
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。		
交流の家職員の役割	・物品の貸出しや回収を行います。 ・引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。			
活動の流れ	【施設入所前に引率者が行うこと】 ・入所40日前までに活動日程表に個数を記入して提出します。 【活動実施前に引率者が行うこと】 ・活動場所で業者から活動の流れと留意事項についての説明を聞きます。 ・業者の指示で新聞紙を活動場所に敷き、粘土を準備します。 【活動】 ・参加者は業者の指導で粘土を成形します。成形が終わったらその場に置いて乾燥させます。（焼き上げと着色は業者が行います。） 【実施後】 ・引率者と参加者で実施場所を清掃し、机・椅子などを使用前の状態に整頓します。			
安全管理留意事項	○業者が指導できない場合は実施できません。 ○荒天時の代替プログラムとしての計画ができます。 ○作成した器は業者が窯で焼き上げるため、完成までに1～2ヶ月程度の時間を要します。別途送料が必要です。お届け先をお知らせください。詳細については業者までお問合せをお願いします。 （窯元流紋焼 tel：0242-56-2221）			

⑬会津漆蒔絵



一貫指導（活動時間の目安：1.5 時間）

概要	漆器の表面に塗料で絵を描き、蒔絵粉を蒔いて装飾する活動プログラムです。				
ねらい	日本の伝統工芸について学び、創造性と独創性を豊かにします。				
条件	対象	幼児～	人数	10 名以上	
	時期	通年	実施判断	—	
準備物	交流の家・業者（貸出物品）		団体（準備物）	個人（準備物）	
	□会津漆器…1,100 円 （箸 1 膳、お椀、小皿、スプーン、れんげ） □新聞紙 □筆 □塗料 □蒔絵粉（まきえいん）		□特になし	□汚れてもよい服装	
引率者の役割	団体責任者	時間管理や全体の状況把握、活動の指導をします。			
	グループ責任者	活動中の人数の把握と健康状態の確認をします。 （学校では担任が一般的）			
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。			
交流の家職員の役割	・ 物品の貸出しや回収を行います。 ・ 引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。				
活動の流れ	【施設入所前に引率者が行うこと】 ・ 実施 40 日前までに活動日程表に漆器の種類と個数を記入して提出します。 【活動実施前に引率者が行うこと】 ・ 事務室で漆器の種類と個数を確認し、交流の家職員から活動の流れと留意事項についての説明を聞きます。業者が指導できない場合は指導用資料も受け取ります。 【活動】 ・ 団体責任者は業者と打ち合わせをして進行をします。業者が指導できない場合は、団体責任者が参加者に作成手順と留意点を説明します。 ・ 参加者は塗料を筆先に付けて文字や絵を描きます。塗料に息を吹きかけて乾かした後に蒔絵粉を乾いた筆に付けて、塗料の上にのせていきます。余分な蒔絵粉をきれいな布で拭き取って完成させます。 【実施後】 ・ 引率者と参加者で実施場所を清掃し、机・椅子などを使用前の状態に整頓します。				
安全管理留意事項	○業者が指導できない場合は引率者の指導となります。その際は事務室にて指導用資料をお渡しします。指導用資料が事前に必要な場合はご連絡ください。 ○荒天時の代替プログラムとしての計画ができます。 ○塗料のにおいが強いので、換気を十分に行って活動をしてください。 ○作品は当日持ち帰ることができます。 ○安全なカシュ塗料を用いて活動します。				



②0 キャンプファイヤー



間接指導 (活動時間の目安: 1.5時間)

概要	仲間とともに炎を囲み、歌を歌ったりゲームやダンスをしたりして楽しむ活動です。			
ねらい	宿泊体験活動に向けての意気込みを固めたり、振り返ったりして、自分や仲間の良さを考えることができます。また、仲間意識を高め、協調性を養うことができます。			
条件	対象	幼児～	人数 (目安)	第 1 営火場 120 名(電源有) 第 2 営火場 50 名(電源有) 第 4 営火場 50 名(電源有) 野球場 200 名(電源有)
	時期	5月～11 月第 1 週		実施判断 —
準備物	交流の家(貸出物品)		団体(準備物)	個人(準備物)
	□アンブ □マイク □片付けセット □消火用バケツ □説明資料 (指導の手引き)		□救急セット □衣装 □薪・トーチ棒(購入可) □マッチやライター などの点火用具 □BGM □ゲーム用具	□懐中電灯
引率者の役割	団体責任者	時間管理や全体の状況把握、活動の指導をします。		
	グループ責任者	活動中の人数の把握と健康状態の確認をします。また、活動中の行動や火の取扱いなどの注意喚起をします。 (学校では担任が一般的)		
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。		
交流の家職員の役割	・物品の貸出しや回収を行います。 ・引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。			
活動の流れ	【施設入所前に引率者が行うこと】 ・薪等を購入する場合は、入所 40 日前までに食事・活動物品申込書の物品欄に記入して提出します。 ・進行シナリオの作成や引率者と参加者の役割分担をします。 【活動実施前に引率者が行うこと】 ・実施方法(準備・片付け)を事務室にて確認します。 ・活動までに薪組み、物品(トーチ棒、消火用バケツなど)の準備をします。明るい時間に行うようにしてください。 【活動】 ・団体責任者の指示で準備してきたシナリオに沿って実施します。 【実施後】 ・引率者は完全消火と片付けをします。(片付けセットのマニュアルに沿って確実にいきます。翌朝に片付ける場合は警備員に伝えてください。) ・グループ責任者は貸出物品をもとの場所へ返却します。			
安全管理留意事項	○火の扱いには十分に注意してください。 ○入退場時は暗闇になるので、足元などに気を付けて歩いてください。 ○破損の恐れがあるので、営火台に水をかけないでください。 ○残炭の処理は野外炊飯倉庫脇の広場またはグラウンドにあるドラム缶に入れて、ふたを閉めてください。 ○灯油が入っていたボトルは事務室に返却してください。			

②1 キャンドルファイヤー



間接指導（活動時間の目安：1～2時間）

概要	仲間とともにキャンドルを囲み、歌を歌ったりゲームやダンスをしたりして楽しむ活動です。			
ねらい	宿泊体験活動に向けての意気込みを固めたり、振り返ったりして、自分や仲間の良さを考えることができます。また、仲間意識を高め、協調性を養うことができます。			
条件	対象	幼児～	人数	体育館………… 300 名 総合研修館… 100 名 武道館………… 50 名 室内…………… 50 名
	時期	通年	実施判断	—
準備物	交流の家（貸出物品）	団体（準備物）		個人（準備物）
	☐ アンプ・マイク ☐ しょく台 ☐ 手持ちしょく台 ☐ 防火シート ☐ 説明資料 （指導の手引き）	☐ 救急セット ☐ 衣装 ☐ ろうそく（購入可） ☐ アルミカップ ☐ マッチやライター などの点火用具 ☐ BGM ☐ ゲーム用具		☐ 特になし
引率者の役割	団体責任者	時間管理や全体の状況把握、活動の指導をします。		
	グループ責任者	活動中の人数の把握と健康状態の確認をします。また、活動中の行動や火の取扱いなどの注意喚起をします。 （学校では担任が一般的）		
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。		
交流の家職員の役割	・ 物品の貸出しや回収を行います。 ・ 引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。			
活動の流れ	【施設入所前に引率者が行うこと】 ・ キャンドルを購入する場合は入所 40 日前までに食事・活動物品申込書の物品欄に記入して提出します。 ・ 進行シナリオの作成や引率者と参加者の役割分担をします。 【活動実施前に引率者が行うこと】 ・ キャンドルファイヤーの実施方法（準備・片付け）を事務室にて確認します。 ・ 物品（ろうそく、しょく台、手持ち台）の準備をします。 【活動】 ・ 団体責任者の指示で準備してきたシナリオに沿って実施します。 【実施後】 ・ 引率者は完全消火と片付けをします。（片付けセットのマニュアルに沿って確実にいきます。） ・ グループ責任者は貸出物品をもとの場所へ返却します。			
				手持ちしょく台
安全管理留意事項	○火の扱いには十分に注意し、活動終了後に完全に消火してください。 ○床に落ちたろうそくなどは清掃をしてください。 ○貸出物品の破損・紛失の場合は弁償していただきます。			

②天体観察



一貫指導可（活動時間の目安：1～2時間）

※研修指導員を依頼した場合は晴天時、荒天時ともに実施（活動時間の目安：2時間）

概要	野外で望遠鏡や双眼鏡、星座早見表を使って、月や星等を観察することができます。			
ねらい	天体や星空について学ぶことができます。また、それぞれの季節の星空の特徴に触れることができます。			
条件	対象	幼児～	人数	研修指導員を依頼する場合は50名程度
	時期	通年	実施判断	星や月の見え方によって判断
準備物	交流の家（貸出物品）		団体（準備物）	個人（準備物）
	□持ち運び望遠鏡 □双眼鏡 □星座早見表 □赤セロファン □輪ゴム		□救急セット	□雨具 □長袖、長ズボン □懐中電灯 □防寒具（冬季）
引率者の役割	団体責任者	時間管理や全体の状況把握、活動の指導をします。		
	グループ責任者	・活動中の人数の把握と健康状態の確認をします。また、活動中の安全面についての指導や注意喚起をします。 ・研修指導員からの指示や注意事項などがあれば参加者に伝えます。（学校では担任が一般的）		
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。		
交流の家職員の役割	・物品の貸出しや回収を行います。 ・引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。			
活動の流れ	【施設入所前に引率者が行うこと】 ・研修指導員を依頼する場合は入所 40 日前までに活動日程表に記入して提出します。 ・団体独自に行うこともできます。その際は、双眼鏡と星座早見表の貸出しのみとなります。操作に慣れている方がいる場合は、望遠鏡も貸出すことができます。 【活動前に引率者が行うこと】 ・貸出物品を使用する場合は事務室で受け取ります。持ち運び望遠鏡を使用する場合は、明るいうちにファインダーの調整と観察場所への移動をします。 【活動】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。確認後に貸出物品を参加者に渡します。 ・グループ責任者は安全面について指導を行い、活動を開始します。 ・参加者は研修指導員から星空の説明を受け、天体観察をします。 【実施後】 ・グループ責任者は貸出物品を事務室に返却します。			
安全管理留意事項	○参加者は季節に応じて虫に刺されないように対策（虫よけスプレー、長袖長ズボン）をしたり、防寒をしたりしてください。 ○参加者は懐中電灯を準備してください。 ○貸出物品の故意による破損・紛失の場合は弁償していただきます。			

②③ そり・スノーチューブ



直接指導（活動時間の目安：任意）※活動開始は9時以降

概要	そりやスノーチューブに乗って積雪の斜面を滑り下りる活動プログラムです。			
ねらい	体力の向上を図ることができます。また、ルールを守って安全に活動する力を育みます。			
条件	対象	幼児～	人数	そり（小300台、大57台） スノーチューブ（6台）
	時期	1月～3月（積雪時）	実施判断	雷注意報時は中止を検討 雷鳴時、降雪・積雪状況によっては中止（屋内避難）
準備物	交流の家（貸出物品）		団体（準備物）	個人（準備物）
	□そり（要事前確認） □スノーチューブ（要事前確認）		□救急セット	□長靴 □防寒具（スキーウェア、帽子、防水手袋等）、ゴーグル
引率者の役割	団体責任者	・実施判断・中断の決定をします。 ・交流の家職員から安全に活動するための説明を聞きます。 ・安全の確保のために引率者のコース配置を指示します。		
	グループ責任者	・活動前後の人数の把握と健康状態の確認をします。 ・コースの試走をし、スタート位置及びゴール地点で指示をします。		
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。		
交流の家職員の役割	・物品の貸出しを行います。 ・活動前に試走をしてスタート位置を決めます。 ・引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。 ・返却物品の個数と破損の有無の確認をします。			
活動の流れ	【活動前に引率者が行うこと】 ・交流の家職員による安全確認後、団体責任者は活動の流れと安全面についての説明を聞きます。 【活動】 ・わんぱく広場（緩斜面）またはふれあい広場（急斜面）で活動します。 ・団体責任者はスタート及びゴール位置に引率者を配置します。 ・引率者は活動開始前にコースの試走をします。スピードが速い場合はスタート位置を進行方向（低い位置）に変更します。 ・グループ責任者は参加者に安全指導を行い、参加者に指示をします。 ・スタート位置に配置された引率者は安全の確認をして、参加者にスタートの合図を出します。 ・ゴール地点に配置された引率者は滑走コース上に人がいないことを確認してスタート位置の引率者に伝えます。 ・グループ責任者は職員からの事前指導で受けた安全な活動のルールを順守して活動しているかを監督します。			

【活動場所】



【実施後】

- ・グループ責任者は参加者の人数の把握と健康状態の確認をして、事務室に終了の報告をします。報告後に貸出物品の雪や水をよく落として返却します。

安全管理
留意事項

- そり、チューブは一人乗りで、立ち乗りは禁止です。
- 決められたスタート位置またはその前方から滑走を開始します。
- 滑走後は決められたルートでスタート位置に戻ります。
- コース内に障害物（雪だるまや穴を掘るなど）を作らないでください。
- そりは足をそり内に入れ、ドーナツ型のチューブはおしりを中心の穴に入れて活動してください。
- 活動当日に施設職員が安全点検や試走をしますが、コース状況は気候によって変化するので、引率者は必ず安全確認をしてください。
- 貸出物品の故意による破損・紛失の場合は弁償していただきます。

②4 スノーシューハイキング

一貫指導可



【活動時間の目安：ショート（2～3時間）ロング（3～6時間）】

概要	スノーシュー（雪に沈みにくい器具）で雪上を歩く活動プログラムです。			
ねらい	体力の向上を図ることができます。また、ルールを守って安全に活動する力を育みます。			
条件	対象	小学4年生～	人数	スノーシュー120足
	時期	1月～3月（積雪時）	実施判断	雷注意報時は中止を検討 雷鳴時、降雪・積雪状況によっては中止(屋内避難)
準備物	交流の家（貸出物品）		団体（準備物）	個人（準備物）
	□スノーシュー （要事前確認） □ヘルメット		□救急セット	□長靴 □防寒具（スキーウェア、帽子、防水手袋等）、ゴーグル
引率者の役割	団体責任者	研修指導員との打ち合わせ（研修指導員を依頼した場合）と実施判断・中断の決定をします。		
	グループ責任者	・活動前後の人数の把握と健康状態の確認をします。 ・研修指導員からの指示（研修指導員を依頼した場合）や注意事項などを参加者に伝えます。 （学校では担任が一般的）		
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。		
研修指導員の役割	・活動開始の30分前に交流の家で団体責任者と打合せをします。 ・活動中は道案内をしたり、危険箇所です状況に応じた指示を出したりします。 ・活動終了後に交流の家で団体責任者と振り返りをします。			
交流の家職員の役割	・物品の貸出しや回収を行います。 ・引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。 ・返却物品の個数と破損の有無の確認をします。 ・当日活動前の打合せ、活動後の振り返りの進行を行います。			
活動の流れ	【活動実施前に引率者が行うこと】 ・事前にハイキングルート、所要時間、危険箇所等を確認します。 なお、ルートについては積雪の状況や参加者の体力に応じて安全に活動ができるように設定してください。積雪状況は気象庁や自治体のホームページ等をご確認ください。 ・引率者間で役割分担をし、参加者へ事前指導（安全指導・準備確認など）をします。 ・スノーシューの装着方法と返却方法を確認します。 【活動】 ・グループ責任者は参加者の人数と体調の確認・把握をします。貸出物品を参加者に渡します。 ・グループ責任者は安全面について指導を行い、参加者が正しくスノーシューを装着しているか確認した後に活動を開始します。			

	【実施後】 ・グループ責任者は参加者の人数の把握と健康状態の確認をして、事務室に終了の報告をします。報告後に貸出物品の雪や水をよく落として返却します。 ＜研修指導員を依頼する場合＞ ・引率者は入所 40 日前までに指導員依頼（活動日程表の提出）をします。 ・団体責任者は活動開始 30 分前に、交流の家事務室で研修指導員と打合せをします。 ・引率者は活動中に研修指導員から指示があった際は参加者全体に伝達と指導を行います。 ・団体責任者は活動終了後に交流の家事務室で研修指導員と振り返りを行います。
安全管理 留意事項	○スノーシューは体格に合ったサイズを選んでください。 ○歩行中にスノーシューの留め金が外れないように調整し、しっかりと固定してください。留め具はスノーシューの外側になります。 ○スノーシューを履いて後退すると転びやすいので、後方への移動は細かく方向転換をして行ってください。 ○スノーシューの裏の金具でケガをしないように参加者同士の間隔をあけて活動してください。 ○必ずグループ単位で行動してください。 ○活動の際は、緊急用に必ず交流の家と連絡が取れるように携帯電話をお持ちください。 ○研修指導員を依頼する場合は 1 クラスに対して研修指導員 1 名が目安になります。 ○貸出物品の故意による破損・紛失の場合は弁償していただきます。

②④雪遊び



直接指導（活動時間の目安：任意）

概要	スコップもしくはシャベルを使って、雪像やかまくらづくりなどをする活動プログラムです。			
ねらい	表現のアイディアや作り方の工夫などの想像力を育みます。また、ルールを守って安全に活動する力を育みます。			
条件	対象	幼児～	人数	制限なし
	時期	1月～3月（積雪時）	実施判断	雷注意報時は中止を検討 雷鳴時、降雪・積雪状況によっては中止(屋内避難)
準備物	交流の家（貸出物品）	団体（準備物）		個人（準備物）
	□スコップ □シャベル □バケツ	□救急セット		□長靴 □防寒具（スキーウェア、帽子、防水手袋等）、ゴーグル
引率者の役割	団体責任者	実施判断・中断の決定をします。また安全の確保のために引率者のコース配置や巡回を指示します。		
	グループ責任者	・活動前後の人数の把握と健康状態の確認をします。 ・安全の確保と事故防止のための巡回をします。 (学校では担任が一般的)		
	救急係	救急セットの携帯と応急手当をします。		
交流の家職員の役割	・物品の貸出しや回収を行います。 ・引率者に活動の流れと安全面についての説明をします。 ・返却物品の個数と破損の有無の確認をします。			
活動の流れ	【活動前に引率者が行うこと】 ・引率者間で役割分担をし、参加者へ事前指導（安全指導・準備確認など）をします。貸し出し物品を使用する際は返却方法を確認します。 【活動】 ・グループ責任者は参加者に安全面について指導を行います。 ・参加者は作るものや場所などの計画を立て、活動します。 【実施後】 ・参加者は作った作品の発表を行います。 ・引率者と参加者は雪遊びで作ったものを活動終了後（その日のうちに）必ず崩して、穴などがある場合は埋めます。 ・グループ責任者は参加者の人数の把握と健康状態の確認をして、事務室に終了の報告をします。報告後に貸出物品の雪や水をよく落として返却します。			
安全管理留意事項	○スコップやシャベルを使う際は十分に間隔をあけて活動してください。 ○除雪した雪が山積みになっている場所は、崩れやすくなっているので登らないように引率者を配置してください。 ○雪像やかまくらは水分を含んだり、気温が高くなったりすると雪が解けて崩れやすくなるため、雨天時や氷点下にならない日は十分に気を付けて活動してください。 ○かまくら内には脱出用のスコップ・シャベルを必ずおいてください。 ○貸出物品の故意による破損・紛失の場合は弁償していただきます。			